

【目次】

1. 研究報告会「独立青年同盟の結成と排撃」（堀内慎一郎氏）を開催、11月22日！
2. 労使関係研究協会が富岡製糸場を見学、11月11日！
3. 働く文化ネットの労働映画鑑賞会が開催される、11月10日！
4. 連載「日本労働会館物語」第63回—教育者・牧師・政治家の内ヶ崎作三郎 その3—

1. 研究報告会「独立青年同盟の結成と排撃」（堀内慎一郎氏）を開催、11月22日！

友愛労働歴史館は11月22日（火）15：00～17：00、第12回政治・社会運動史研究会を開催しました。今回は研究報告会の形で開催し、テーマは「独立青年同盟の結成と排撃」、報告者は堀内慎一郎氏（日本政治学会会員）でした。独立青年同盟は1949（昭和24）年に結成され、当時の労働運動や日本社会党において激しい左右対立を引き起こす一つの切っ掛けとなった団体で、後の民主社会主義青年同盟・民社党青年隊の源流ともいえるべき組織です。



報告会で堀内慎一郎氏は、パワーポイントを使用しつつレジュメに基づき約1時間30分にわたって報告をし、その後、質疑・意見交換に入りました。レジュメの主な項目は、①独立青年同盟（独青）とは、②労働運動における独青関係者の結集過程、③労働運動関係者と社会党関係者の結集過程、④独青の結成、⑤独青をめぐる対立と総同盟における排撃、⑥独青の終焉、⑦考察、⑧終わりに、でした（詳細は略）。

2. 労使関係研究協会が富岡製糸場を見学、11月11日！

友愛労働歴史館の兄弟組織である労使関係研究協会（小出幸男会長）は11月11日（金）、群馬県富岡市にある世界遺産「富岡製糸場」の見学会を実施しました。これは労使研が毎年、実施している研修会活動の一環。



富岡製糸場は日本最初の本格的な機械製糸工場で、官営工場として1872（明治5）年に設立され、日本の近代化、絹産業の技術革新に大きく貢献。その後、片倉工業の所有となり、現在に至っています。

研修会参加メンバーは友愛会館からチャーターバスで群馬県富岡市の富岡製糸場に移動し、ボランティアガイドから説明を受けながら見学を行いました。

3. 働く文化ネットの労働映画鑑賞会が開催される、11月10日！

NPO法人・働く文化ネットの第33回労働映画鑑賞会は、11月10日（木）18：00～から連合会館会議室で開催されました。上映映画は「労働映画100選」の中の「浮世絵の復刻（彫り師と刷り師）」、「鳶」、そして「西陣」の3本。何れも1959～1960年頃に制作されたモノクロ映画でした。なお、次回の労働映画鑑賞会（12月8日18時・連合会館）は、「労働映画の源流を求めた『明治の日本』（1897～1899年）、『隅田川』（1931年）の2本です（参加自由、申し込み不要）。

4. 連載「日本労働会館物語」第63回—教育者・牧師・政治家の内ヶ崎作三郎 その3—



今回は内ヶ崎作三郎（1877～1947。早大教授、ユニテリアン教会・統一基督教会・自由基督教会の牧師）の連載3回目で、政治家・内ヶ崎作三郎についてです。

宮城県出身の政治家である内ヶ崎作三郎は1924（大正13）年の衆議院議員に出馬し、初当選。以後、6回の当選を重ねます。内ヶ崎は1937（昭和12）年には民政党総務、第一次近衛内閣の文部政務次官に就任。そして1939（昭和14）年に民政党幹事長を務め、1940（昭和15）年に民政党が解散すると無所属から衆議院議員倶楽部に入り、1941（昭和16）年には翼賛議員同盟に所属し、衆議院副議長に就任しています。

内ヶ崎作三郎はなぜ牧師・教育者から政界へ進んだのでしょうか。そこには内ヶ崎らユニテリアンや自由基督教徒が共有した思い、目的意識がありました。内ヶ崎に先駆け、ユニテリアン教



会・自由基督教会から永井柳太郎（1881～1944）や星島二郎（1887～1980）が1920（大正9）年に政界へ進出しています。また、第1回普選が行われた1928（昭和3）年には、安部磯雄や鈴木文治、河上丈太郎らが無産政党から出馬し、当選しています。

ユニテリアンの盟友である内ヶ崎と永井は民政党、星島は政友会、安部と鈴木は社会民衆党、そして河上は日本労農党と、彼らの所属政党は分かれまじました。しかし、彼らには「社会問題の解決」「自由の拡張」「理想社会の構築」という共通の思い、目的がありました。

内ヶ崎は1912年の『六合雑誌』新年号に「統一基督教会の成立」との論文を寄せ、ユニテリアン教会を統一基督教会に名称変更した理由を述べています。その中で彼は、「婦人の地位の向上」「社会問題の解決」を挙げています。内ヶ崎が政治を志した背景には、「婦人の地位の向上」や「社会問題の解決」は、政治の舞台でしか実現できないという意識があったのでしょうか。

ユニテリアン研究の第一人者である慶大名誉教授の土屋博政氏は、彼らは教会を離れ、①政治運動の分野、②労働運動の分野、③教育や文学、著述の分野に進んでいった、と分析。そして政治家となったユニテリアンについて、「彼らはキリスト教界を超えて、政治界で自由の拡張（選挙権拡張、言論・思想の自由など）を求めた」と述べています。

さらに今岡信一良牧師は、その著『わが自由宗教の百年』で「ユニテリアン教会……そこで親しく交わった安部磯雄、永井柳太郎、鈴木文治、星島二郎、内ヶ崎作三郎、松岡駒吉、河上丈太郎などの諸君は、やがて、次々と政治運動に、あるいは労働運動に挺身し……彼らは宗教を原動力として、その精神を広く現実社会に実現し、理想社会を造ろうとした」と述べています。

政界に進んだユニテリアン教会・自由基督教会のメンバーたちは、それぞれの立場で「社会問題の解決」「自由の拡張」「理想社会の構築」を追い求めたのです。

「人間の尊厳、進歩と発達のために」

発行：友愛労働歴史館 責任者：徳田 孝蔵 担当者：間宮悠紀雄

〒105-0014 港区芝 2-20-12 友愛会館 8F TEL050-3473-5325

Eメール yuaireodrekishikan@rodokaikan.org HP <http://www.yuaireodrekishikan.com>

惟一館から122年、友愛会から104年